

## E-learning 英語教育の実践報告

工 藤 俊\*・江 連 成 美\*\*

### A Report on English E-learning Program

Shun KUDO\*・Narumi EZURE\*\*

#### Abstract

The main purpose of this paper is to investigate the learning effects of English e-learning. We particularly focus on a consideration of e-learning contents and how students studying English with e-learning have developed their English ability. In 2018, Komazawa Women's University adopted two kinds of e-learning contents in some required English classes for the first year students: *Practical English 450* and *TRACKER FOR THE TOEIC (R) L&R TEST*; both of which are developed by *Reallyenglish Japan Co.,Ltd.* *Practical English 450* is a computer based program which focuses on the improvement of the so-called "four skills in English learning," i.e. listening, speaking, reading, and writing. In addition, *TRACKER FOR THE TOEIC (R) L&R TEST* was introduced to measure how students improve their English skills through *Practical English 450*. As it is a TOEIC mock test, students can take it as if they were taking the real TOEIC test.

This paper particularly outlines (i) an overview of the two e-learning contents, (ii) how classes using the e-learning contents were organized, (iii) how students developed their English skills through the e-learning contents. Furthermore, we would like to introduce some students who have made distinguished achievements through the e-learning study.

#### 1. はじめに

本稿の主な目的は、集団英語学習における e-learning の学習効果について考察することである。具体的には、実際に使用した e-learning コンテンツの概観、および e-learning 受講生の伸びの考察、以上2つに焦点を当てて論考する。駒沢女子大学人間総合学群では、1年次の必修科目として、前期に「英語 A I」と「英語 B I」、後期に「英語 A II」と「英語 B II」という科

目が設置されている。「英語 A」では会話を中心とした授業が展開され、「英語 B」では TOEIC におけるスコアアップに主眼を置いた授業が展開されている。その中で、平成30年度の「英語 B I・II」の一部のクラスにおいて、リアリーイングリッシュ株式会社が開発する、複数の e-learning コンテンツを導入することになった。

このような背景を踏まえ、本稿は e-learning

\* 人文学部 国際文化学科

\*\* 駒沢女子大学 非常勤講師

が学生に寄与する学習効果について、平成30年度前期に行われた e-learning の授業内容、TOEIC 模擬試験の結果、そして学生の伸び等に言及しながら議論を進める。本論の構成は以下のとおりである。第2節：e-learning の概要について、第3節：TOEIC 模擬試験の結果考察（ケーススタディ）、第4節：まとめ。

## 2. 使用コンテンツの概要

### 2. 1. Practical English 450

本節では、授業で使用した英語学習コンテンツの一つである、リアリーイングリッシュ株式会社開発の「Practical English 450コース」の概要について簡単に概説する。使用コンテンツの期間、対象クラス、ならびに対象学生は概略、以下のとおりである。

使用コンテンツ：Practical English 450（英語 B I ミニコース）

期間：平成30年4月10日（火）—7月19日（木）

対象学生：平成30年4月入学の英語コミュニケーション専攻志望の1年生<sup>1</sup>

対象クラス：「英語 B I」における Y クラスと Z クラス<sup>2</sup>

使用コンテンツにおける「英語 B I ミニコース」というのは、本学における e-learning 実施に合わせて、リアリーイングリッシュ株式会社が個別に設定したコースである。実際の Practical English 450の計350レッスンの中から、いくつかのレッスンを抜粋した形で学生に提供したのが、Practical English 450(英語 B I ミニコース)である。また、学生の学力に応じて2クラス設置し、それぞれのクラスで同一のコンテンツを使用して授業を展開した。なお、能力別のクラス編成については、平成30年4月に実施したクラス分けテストの結果を参考にしている。

当該コースの受講学生の数、修了者、平均学習レッスン数、平均学習時間等については、以下のとおりである。

表1 Practical English 450の受講生の概要

Practical English 450 (英語 B I ミニコース)	概要
登録者数	55 名 (Y : 30 名、Z : 25 名)
修了者	49 名
未修了者	6 名
修了率	89.0%
平均学習レッスン数	20.3 レッスン
平均合格レッスン	20.2 レッスン
平均学習時間	8 時間 22 分

登録者数は、Y クラスが30名、Z クラスが25名である。Practical English 450の修了条件として、全体の60%をクリアすることが要求される。なお、未修了者6名は、主に欠席等の理由で授業にあまり参加できなかった学生である。しかし、全体的な修了率は89.0%であるので、大多数の

学生が当該コースを修了することができたといえよう。また、平均学習時間は8時間22分であった。さらに、この e-learning コンテンツとは別に、各クラス担当の教員は学生に課題を課していたので、全体的には相当な時間数が英語学習に充てられた。

表2 Practical English 450（英語 B I ミニコース）のレッスン内容

	Lesson title		
1	A good place to live	a	Farm animals and pets
2	Buying a train ticket	b	Wild animals
3	Cooking and food	c	Living with a roommate
4	Enjoying yourself	d	Interrupting politely
5	Everyday activities	e	Internet business
6	Everyday questions	f	Arranging meetings
7	Expressions about personal possessions	g	Computer equipment
8	Good food	h	Office equipment
9	Making excuses	i	Let's go shopping
10	Using transportation	j	At the post office
11	Where things are	k	Making a complaint
12	A famous sports person	l	Asking for and giving recommendations
		m	At the bank

続いて、レッスンの内容について概観する。アラビア数字でナンバリングされたレッスンは、主に授業内で扱ったものである。一方、アルファベットで記されているレッスンは、自学自習用に用意されたレッスンで、主に授業外学習用のレッスンとして扱った。レッスンの内容については、タイトルからもわかるように、日常生活に即した題材となっており、同時に TOEIC にも対応したコンテンツも多分に含んでいるので、TOEIC でのスコア向上を目標とする「英語 B I・II」に適した内容といえる。その他、Practical English 450（英語 B I ミニコース）の特徴としては、以下のようなものがある。

- ① 毎レッスンの最後は必ず TOEIC 形式のテストがあるため、実際のテスト対策にも対応している。
- ② レッスンで理解できなかった箇所のフォローのため、オンライン文法参考書がコンテンツとして用意しており、いつでも参照することができる。
- ③ アニメーションで学べるレッスンがあり、英語を苦手と感じる学生でも親しみやすい。

次に、実際に行われた授業形式の一例を紹介する。

授業形式（一例）：

- ① ハンドアウトを利用したアクティビティ
- ② e-learning（Practical English 450（英語 B I ミニコース））
- ③ Wrap-up

まずは①のアクティビティについて概説する。各レッスンには e-learning の前に行うウォーミングアップ用の副教材（ハンドアウト）が用意されている。たとえば、表2の1. A good place to live は、主に比較級および最上級の文法事項を学ぶ単元であった。その副教材として、a. 形容詞や副詞の比較級を答えさせる文法問題、b. 比較級・最上級が用いられた文を読み、強勢が置かれる箇所を把握し発音する活動、c. 表から情報を読み取り、その説明文を完成させる空所補充問題、d. 表から情報を読み取り、グループ内の他の学生にそれを英語で伝える練習などがある。a. は主に基本的な文法を学ぶセクションであり、比較級・最上級の用法をおさえることができる。b. では、比較級・最上級を用いた

文の発音練習を行うセクションであり、英語の自然な発音方法を学ぶことができる。c.では、情報を的確に読み取り、それに基づいて長文を完成させるという、主に読解に関連したパートである。そしてd.では、表から得た情報を英語で的確に伝える練習を行った。このように、「読む・書く・聞く・話す」といった、いわゆる英語学習における4技能が、この副教材にはバランスよく取り入れられている。したがってこの活動は、Practical English 450（英語B I ミニコース）に入る前の基礎知識の確認、およびウォーミングアップの素材としては最適であった。また、前述のとおり、このアクティビティはPractical English 450（英語B I ミニコース）への導入として非常に重要な役割を担っているため、授業全体の半分以上を使って行った。実際、授業時間は90分で、そのうち①のアクティビティには50分から1時間ほどかけて、重点的に行った。

次に実際のPractical English 450（英語B I ミニコース）について概説する。当コンテンツには、リスニング、発音練習、文法問題、長文読解などのコンテンツが用意されている。当然、すべての演習で文法項目が織り交ぜており、体系的に英語を学習できるようになっている。特に、学生が発話練習できる機能がついており、e-learningならではの学習が実現できたといえる。また、各設問の後には解答と解説が表示されるので、間違えた学生はその理由を知ることができる。言い換えると、学生が教員に頼らず自律的に学習することが、このコンテンツによって可能になった。また、集団で解説を行う場合、その都度、作業を中断しなくてはならなくなるが、このコンテンツではその手間を省く

ことができるので、基本的に教員は学生が解説を読んでも理解できない箇所だけに、個別に対応するという形式をとった。このような理由で、Practical English 450（英語B I ミニコース）は学生にとっても教員にとっても有益な英語学習コンテンツであるといえる。また、クラスによって異なるが、e-learningには20分から25分程度で1つのレッスンを完成させるように要求した。語学学習という性格上、授業の中心はあくまでも学生同士のインタラクションに重きを置くべきであると判断し、個人で行う作業は授業全体の半分に以下にした。

そして授業の最後に、その日に学習した文法事項の総括や次回までの宿題等について、簡単なまとめを行った。なお、紙媒体のテキストとしてOPEN THE GATE FOR THE TOEIC(R) TEST（金星堂）というテキストも使用した。ただし、授業内ではあくまでもPractical English 450（英語B I ミニコース）に基づいた活動を主とするため、このテキストは主に宿題として学生に課した。

## 2. 2. TRACKER FOR THE TOEIC (R) L&R TEST 1・2

続いて、リアリーイングリッシュ株式会社が提供するTOEIC模擬試験のコンテンツである「TRACKER FOR THE TOEIC (R) L&R TEST 1」および「TRACKER FOR THE TOEIC (R) L&R TEST 2」について概観する。前節で述べたPractical English 450（英語B I コース）を通じて、受講生の英語力の伸びを測定するために、前期の前半にTEST 1、そして後半にTEST 1を実施した。

登録者数、修了者数、未修了者については、以下のとおりである。

表3 TRACKER FOR THE TOEIC L&R TEST (1 & 2) の概要

TRACKER FOR THE TOEIC L&R TEST (1 & 2)	概要
登録者数	55名(Y: 30名、Z: 25名)
修了者	51名
未修了者	4名

未修了者が4名いた以外は、ほぼすべての Practical English 450（英語 B I コース）受講生が両テストを受験した。

このコンテンツの特徴として、以下のようなものがある。

- ① 公式 TOEIC TEST と当該コンテンツの相関係数は0.83である。
- ② 受験後にすぐ結果がわかる。
- ③ 受講期間内は無制限に受験することが可能である。
- ④ e-learning でテスト環境を再現できる。

①の相関係数は、実際の TOEIC テストとの関連性の強さのことで、相関係数1が完全一致を表す。0.83という数値からも明らかなように、当該コンテンツは公式テストと非常に強い相関があり、学生は当該コンテンツを通じて、本番さながらのテスト体験をすることができる。また、②にあるように、当コンテンツは受験終了直後に結果がわかるようになっている。つまり、学生が受験した感触がまだ残っているうちに、自身の学習を客観的に振り返ることができる。また、実際の TOEIC テストは当然、同じテストを二度受験することはできないが、当コンテンツは、受講期間中は何度でも受験ができる。したがって、自分が不得意とする問題を何度も解き直すことが可能で、弱点の克服につなげる

ことができる。さらに、再受験のたびに出題の順番が変わるので、受講生は問題の答え（記号）を覚えてしまうという弊害を回避できる。そして、実際の TOEIC テストは紙媒体の試験であるが、e-learning を通じてテスト環境が再現できるという点も、特筆すべきであろう。

この TRACKER FOR THE TOEIC (R) L&R TEST 1および TEST 2は、Y クラスおよび Z クラスで、以下の日程で実施された。

#### TRACKER FOR THE TOEIC (R) L&R TEST 1

実施日：

Y クラス：2018年5月10日（木）

Z クラス：2018年5月1日（火）

#### TRACKER FOR THE TOEIC (R) L&R TEST 2

実施日：

Y クラス：2018年7月12日（木）

Z クラス：2018年7月10日（火）

クラスごとで実施日が若干異なるが、両クラス共に TEST 1と TEST 2の間隔はおおむね2ヶ月である。

続いて、TEST 1および TEST 2の各クラスにおける平均点を概観する。Y クラスおよび Z クラスの平均点は以下のとおりである。

表4 YクラスのTEST 1およびTEST 2の平均点

TEST 1				TEST 2			
Students	Listening score	Reading score	Total score	Students	Listening score	Reading score	Total score
平均	234.3	149.4	383.8	平均	236.7	182.1	418.9

表5 ZクラスのTEST 1およびTEST 2の平均点

TEST 1				TEST 2			
Students	Listening score	Reading score	Total score	Students	Listening score	Reading score	Total score
平均	191.0	128.1	319.2	平均	198.5	132.8	331.3

先にも述べた通り、両クラスは学力別でクラス編成を行っている関係で、各テストの平均点に差が生じるのは必然であろう。このような背景を踏まえ、両クラスを合わせた平均点を算出するよりも、クラス単位で平均点を算出するのが妥当と判断し、上記のような形でデータを提示するに至った。

表4および表5から明らかなように、両クラス共に、第1回よりも第2回のテストの平均点の方が高い。Practical English 450（英語B Iコース）を通じて、英語学習を2ヶ月間継続した結果が、このような結果に表れたといえよう。

確かに、TOEIC 模擬テストの結果のみを以って、学生の英語力が総合的に向上したと断言することは難しい。しかし、英語力を測定する1つの指標として用意されたTRACKER FOR THE TOEIC (R) L&R TEST 1およびTEST 2で、このように目に見える形で平均得点が向上したということは、e-learningを通じた英語教育に実効性があることの証明に他ならない。

学生の英語力向上について、さらに以下のデータを参照しながら考察を掘り下げることにしてしよう。

表6 YクラスにおけるTEST 1およびTEST 2における学生の伸び

Students	Listening	Reading	Total
平均	2.68	32.5	35.18

表7 ZクラスにおけるTEST 1およびTEST 2における学生の伸び

Students	Listening	Reading	Total
平均	6.52	3.26	9.78

表6および表7は、リスニングセクションおよびリーディングセクションの項目で、TEST 1とTEST 2の間で、どれだけの伸びがあったかを示している。具体的には、各学生のTEST 2におけるリスニングスコアおよびリーディング

スコアから、TEST 1におけるそれぞれの点数を引いた数字を算出し、その平均をとったものが上記の表6および表7である。

Yクラスにおいては、リスニングの伸びは2.68とやや低調であったが、一方でリーディン



グは32.5と飛躍的に伸びている。これは、Practical English 450（英語 B I コース）に入る前のウォーミングアップで、「読む・話す」を中心としたアクティビティに加え、教員が用意した、関連するユニットの文法問題を適宜導入していたことが実を結んだと考えられる。さらに、テキスト（OPEN THE GATE FOR THE TOEIC (R) TEST）の文法・リーディング問題をほぼ毎回宿題として課していたので、学生は授業外でもリーディングに接する機会が多かった。このことも、リーディングセクションの平均値が飛躍的に向上した要因であろう。総合的には、TEST 1と TEST 2の間で、平均して総得点が35.18も上昇した。

一方、Zクラスにおける学生の伸びをみると、リスニングセクションについてはYクラスよりも伸び幅が大きい。Zクラスでは、特に「聞く・話す」に関する英語力を強化することに重

きを置いていたので、このような結果は妥当であるといえる。全体の伸びとしては、Yクラスよりは小さいが、それでも総合的な英語力向上は達成されたと結論づけられる。

### 3. ケーススタディ

続いて本節では、TRACKER FOR THE TOEIC (R) L&R TESTにおける得点の伸びが顕著だった学生をとりあげ、授業内における活動の様子を報告する。

#### 3. 1. Yクラス

はじめに、学生 D について取り上げる<sup>3</sup>。学生 D は普段は物静かな印象を与える学生であるが、与えられた課題はしっかりとこなす真面目な学生である。学生 D の TEST 1および TEST 2におけるリスニング・リーディングのスコア、および TEST 1から TEST 2の伸びは、以下のとおりである。

表8 学生 D の TEST 1および TEST 2のスコア

TEST 1				TEST 2			
Students	Listening score	Reading score	Total score	Students	Listening score	Reading score	Total score
D	220	135	355	D	275	230	505

表9 学生 D の TEST 1から TEST 2の伸び

Students	Listening	Reading	Total
D	55	95	150

表4にあるように、TEST 1におけるYクラスのリスニングの平均点は234.3、そしてリーディングの平均点は149.4であった。つまり、学生 D は両セクション共に、クラス平均を下回っていた。一方、TEST 2における、Yクラスのリスニングの平均点は236.7、リスニングの平均点は182.1であった。それに対して学生 D は、それぞれ上記のようなスコアを記録し、クラス平均を上回った。特にリーディングセクション

は、TEST 1と TEST 2の間で100点近く上昇しており、学生 D の実直に英語学習に取り組む姿勢が実を結んだといえる。

次に、学生 O について取り上げる。当学生は、人間関係で壁を作ることなく、誰とでも話すことができる学生で、授業中の課題にも積極的に取り組んでいた。学生 O の TEST 1および TEST 2におけるリスニング・リーディングのスコア、および TEST 1から TEST 2の伸びは、

以下のとおりである。

表10 学生 O の TEST 1 および TEST 2 のスコア

TEST 1				TEST 2			
Students	Listening score	Reading score	Total score	Students	Listening score	Reading score	Total score
O	180	105	285	O	255	210	465

表11 学生 O の TEST 1 から TEST 2 の伸び

Students	Listening	Reading	Total
O	75	105	180

学生 D と同様、TEST 1 におけるスコアは、リスニング・リーディング共にクラスの平均を下回る結果となった。しかし、その後は英語学習を継続し、TEST 2 ではリスニング・リーディング共にクラスの平均を上回った。特にリーディングセクションでは105点も上昇した。これは、e-learning を含めた授業および自学自習で、本人が自覚を持って勉学に励んだ成果といえる。

続いて、学生 S について取り上げる。学生 S は明るい性格で、周囲の学生と協調して活動を行うことができる。また、教員にも積極的に話しかける学生で、良好な人間関係を構築することに長けた学生である。学生 S の TEST 1 および TEST 2 におけるリスニング・リーディングのスコア、および TEST 1 から TEST 2 の伸びは、以下のとおりである。

表12 学生 S の TEST 1 および TEST 2 のスコア

TEST 1				TEST 2			
Students	Listening score	Reading score	Total score	Students	Listening score	Reading score	Total score
S	180	115	295	S	265	180	445

表13 学生 S の TEST 1 から TEST 2 の伸び

Students	Listening	Reading	Total
S	85	65	150

この学生も、前出の2人と同様に、TEST 1 におけるスコアは、リスニング・リーディング共にクラス平均を下回っていた。しかし、先に述べた通り、学生 S は周囲と積極的に会話することを厭わない性格で、理解ができない箇所については、周りの学生や教員に質問して解消していた。その成果が TEST 2 に表れた。リーディ

ングセクションではクラス平均を下回ったものの、TEST 1 と比較してリスニング・リーディング共に顕著な伸びをみせたことは特筆に値する。

最後に、学生 W について取り上げる。学生 W は当初、自ら積極的に前に出るような学生ではなく、仲の良い友人とのみ話すという印象を受けた。しかし、授業の回が進むにつれて、



ペアワークやグループワークも積極的に行うようになり、成長の様子がうかがえた。学生 W の TEST 1 および TEST 2 におけるリスニン

グ・リーディングのスコア、および TEST 1 から TEST 2 の伸びは、以下のとおりである。

表14 学生 W の TEST 1 および TEST 2 のスコア

TEST 1				TEST 2			
Students	Listening score	Reading score	Total score	Students	Listening score	Reading score	Total score
W	190	95	285	W	265	160	425

表15 学生 W の TEST 1 から TEST 2 の伸び

Students	Listening	Reading	Total
W	75	65	140

前出の 3 人と同様、TEST 1 におけるスコアは、リスニング・リーディング共にクラス平均を下回っていた。しかし TEST 2 においては、リーディングセクションはクラス平均を下回ったものの、両セクションでまんべんなく点数を上げることが成功し、総得点ではクラス平均を上回ることができた。与えられた課題をこなし、不得手な箇所を自分なりに解消しようと努力した結果が表れたと考えられる。

### 3. 2. Z クラス

続いて、Z クラスの学生について言及する。各学生について述べる前に、Z クラスの授業方針について、特に e-learning に関連した点に絞って簡単に説明する。前期授業開始当初の学生の英語習得状況・学習に対する姿勢を鑑み、「学習習慣を身につけ、自律学習につなげる」という授業目標を設定し、「学習習慣を身につける」という点において、e-learning を大いに活用することを学生に促した。Z クラスの学生の中には、IT リテラシー、課題提出などの面でも、まだまだ未熟な学生がおり、e-learning を導入することでその部分の改善につながればとも考えた。また、ミニコース（前期分全25ユ

ニット）については、授業内で扱う12ユニット以外にも、課外で残りの13ユニットを各自進めてもらった。修了学習ユニット数・学習時間数が多い順にクラス内で順位を付け、上位の学生には授業の評価の際、加点をするというゲーム性も取り入れ、積極的に取り組むよう指導した。以上のような背景を踏まえた上で、次に学生についての分析を行う。

はじめに、学生 GG について取り上げる。学生 GG は授業内での発言などはあまりせず、控えめな印象の学生である。一方で、ライティングや会話を作るなどの個人またはペア活動では、豊かな発想で独自の内容にするなど、課題に取り組む姿勢は積極的である。同時に、宿題も毎回締め切りを守り、安定してこなせる能力も持つ。総学習時間も約12時間、復習を含む学習レッスン数も95と非常に多く、ミニコースも25ユニットすべて修了し、熱心に取り組んだ様子がうかがえる。また、一時期にまとめて学習するのではなく、毎週少しずつユニットを進めていた。学生 GG の TEST 1 および TEST 2 におけるリスニング・リーディングのスコア、および TEST 1 から TEST 2 の伸びは、以下のとおりである。

表16 学生 GG の TEST 1および TEST 2のスコア

TEST 1				TEST 2			
Students	Listening score	Reading score	Total score	Students	Listening score	Reading score	Total score
GG	170	145	315	GG	240	190	430

表17 学生 GG の TEST 1から TEST 2の伸び

Students	Listening	Reading	Total
GG	70	45	115

表5にあるように、TEST 1におけるZクラスのリスニングの平均点は191.0、リーディングの平均点は128.1であった。学生 GG は TEST 1ではほぼクラス平均に近いスコアであったが、TEST 2では大きくスコアを伸ばし、特にリスニングの伸びが顕著であった。コンスタントに課題に取り組む姿勢が成績の伸びにつながった好例である。

次に、学生 RR について取り上げる。当学生は授業開始当初は欠席が多く、心配の多かった学生であるが、クラス内の友人も多く、授業

内では非常に積極的で、当初から英語学習にも前向きであった。出席状況も途中から改善し、それにつれてミニコースの学習も安定して進めることができるようになった。その結果、総学習時間約11時間、復習も含む学習レッスン数も84と多く、ミニコースも25ユニットすべて修了することができた。学生 RR の TEST 1および TEST 2におけるリスニング・リーディングのスコア、および TEST 1から TEST 2の伸びは、以下のとおりである。

表18 学生 RR の TEST 1および TEST 2のスコア

TEST 1				TEST 2			
Students	Listening score	Reading score	Total score	Students	Listening score	Reading score	Total score
RR	200	65	265	RR	250	145	395

表19 学生 RR の TEST 1から TEST 2の伸び

Students	Listening	Reading	Total
RR	50	80	130

TEST 1のリスニングはクラスの平均点とほぼ同じであったが、リーディングは平均点の半分ほどしか取ることができなかった。しかし、TEST 2では、リスニング・リーディングともにスコアを伸ばすことができた。今回の成績上昇が意欲につながったのか、前期授業期間終了後も引き続き e-learning で学習を継続していた

のが印象的である。

#### 4. おわりに

本稿は、集団英語学習における e-learning の使用と、その学習成果の関連性について考察してきた。具体的には、実際のコンテンツ (Practical English 450 (英語 B I ミニコース)、

TRACKER FOR THE TOEIC (R) L&R TEST 1および TEST 2)、および学生の伸びという 2 点に言及する形で論考した。Y クラス、Z クラス共に TOEIC 模擬テストのスコアは伸び、学生の e-learning を通じた英語学習は、総じて効果のあるものと結論付けられる。

ただし、今後取り組まなければならない課題が残っていることも事実である。たとえば、e-learning は元来、自学自習用のコンテンツであるため、「授業内で扱うコンテンツとしての e-learning」というものを、今一度再考する必要がある。今回は、e-learning 以外のアクティビティ（会話・問題演習等）を多分に取り入れて対応したが、今後は「集団授業における e-learning の運用方法」について、深く考えていく必要がある。また、TEST 1と TEST 2で点数が落ちた学生も散見された。点数が落ちた原因は、e-learning の形式が問題だったのか、それとも他に原因があるのかを明確にする必要がある。

#### 参考資料

*Practical English 450* (株式会社リアリーイング  
グリッシュ)

*TRACKER FOR THE TOEIC (R) L&R  
TEST* (株式会社リアリーインググリッシュ)

#### 注

<sup>1</sup> 平成30年度より開始された本学の学群制度のもとでは、人間文化学類に所属する1年生は、2年に進級する際に、日本文化専攻、人間関係専攻、英語コミュニケーション専攻のいずれかを選択する。平成30年4月の段階で、新入生に対してアンケートをとり、次年度に英語コミュニケーション専攻を第一志望すると答えた学生を選抜し、必修英語「英語 A I」、「英語 A II」、「英語 B I」、「英語 B II」の

クラス編成を行った。

<sup>2</sup> 「Y クラス」および「Z クラス」という名称は、実在のクラス名ではないが、便宜上、本論ではこのような呼び名を使用する。

<sup>3</sup> 学生のアルファベットは、個人情報の関係上、本名のイニシャルではなくランダムに選定してある。

